

見えなくてもだいじょうぶ？

峡田小学校 五年 村山 士竜

が分かります。ぼくは、目をつむって、リンゴをさわっても、「リンゴだ。」とは分かるけれど、うれているかどうかなんて、ぜんぜん分かりません。

やなぎ田先生、こんにちは。やなぎ田先生は目の不自由な人に会ったことがありますか。ぼくは、まだありません。この本の主人公カーラは、町で迷子になってしまいました。気付いてくれたのは、目の不自由なマチアス。マチアスは、カーラのお父さんとお母さんをさがしてくれます。

ぼくは、この本を読むまで、目の不自由な人は、ふつうの人に比べて、目の不自由なぶん、不便なことが多いのだと思っていました。でも、ちがいました。例えば、リンゴがうれているかを調べるとき、ふつうは色を目で見てはんだんします。でも、マチアスは、指でさわった感じよくと、においだけで、どのくらいうれているのか

さらにマチアスは、もっと便利なことができました。やなぎ田先生は、もし夜中にトイレに行くとき、明かりをつけますか。ぼくは、トイレに行くときは、必ずつけます。でも、マチアスは、明かりをさがしてつけなくてもへいきなのです。ぼくは、いいなと思いました。でも、やっぱり、自分の目を見えなくさせることはできません。なので、目をつむっているんなことをやってみました。歩くのは大変だし、トイレに行っても、どこが便器なのか分かりません。でも、いろんな音がよく聞こえました。カーラは、「おにいさんは、耳でも見えるのね。」と言っています。まさにその通りだと思えます。

この本は、目の不自由な人の思いが伝わってくる本

なので、ぜひ、やなぎ田先生も読んでみて下さい。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

目の見えない人、耳の聞こえない人、車椅子の人など、障がいのある人のことを、障がいのない人は正しく理解しているでしょうか。不自由な生活をしている気の毒な人という目でしか見ていないのではなからうか。実は、そういう見方は根拠のない思いこみでしかないことを、村山君は、絵本を読んで気づいたのですね。

絵本の主人公のカーラが出会った目の不自由なマチアスは、目が見えなくても、リンゴを手で触れ、鼻で香りを嗅ぐだけで、リンゴがどれくらいうれているかがわかる。夜暗くても、電気をつけなくて平気でトイレに行ける。聴覚が発達していて、まわりがざわざわしているだけのようでも、マチアスは「しっしっしっの音をしっかりと聞きわけてくる。

村山君は、絵本でそういうことを知って驚くだけでなく、自分でも目をつむっているんなことを実験してみると、耳が敏感になって、マチアスのことをカーラが、「おにいさんは、耳でも見えるのね」と言っていることが本当なんだと、納得しましたね。

絵本に限らず、広く本を読むということは、さまざまな気づきをもたらしてくれるのですが、読み終えたら、自分はどうなことに気づき、自分で思いこんでいたことがどのように間違っていたのかということ、まとめて書いてみると、正しい知識や人間を見る目をしっかりと身につけることができるのです。さらに、村山君のように、気づいたことを自分で実験して確かめてみると、自己中心にならずに、まわりの人々のこと、とくに悲しみや苦しみをかかえている人の心を理解する力が身につき、人間的に大きく成長することができます。

村山君の感想文は、とても大事なことを語っているので、

今回の大賞に選びました。